

NZ のカラंगाハケ小学校で折紙教室

2017年9月19日、火曜日。わが家も学区となっているカラंगाハケ小学校で、授業の一環として折紙教室を開きました。これは当協会の田中昭子さんが友人の鳥羽克子さんと当地を訪れるのに合せて、開催に漕ぎ着けたもの。忘れてならないのは、近所の友人で同校に勤務しているセビンの尽力があったことです。

カラंगाハケ小学校は、総生徒数 52 人のこじんまりとした学校で、谷あいの丘の上にあります。下は 5 歳から上は 13 歳までで、3 つのクラスに分けて教育が施されています。

折紙という言葉は先生には定着しており、学校には英語で書かれた折紙の本もおいてあり、子どもたちの中にも知っている子もいました。私たちに与えられた時間は午後 1 時半から 3 時までの 1 時間半。初めに、折紙作りに参加する子たちを大きな部屋に集めて、世界地図で日本の位置を知らせ、NZ との位置が赤道を挟んでよく似たところにあることを説明しました。季節は逆だということも付け加えました。このあと日本についての質問に移り、日本の人口はどれくらいか、日本でいちばん好きな場所はどこか、日本までは飛行機でどれくらいの時間が掛かるかとか、グローバルな世界関係を学んでいる高学年の生徒からは、経済についての質問もありました。

日本の唱歌、「花」（滝廉太郎作曲）を披露した後、低学年の子どもたちの部屋に移動して、折紙を始めました。作ったのは奴さんとカブト。「奴さん」では子どもたちに理解できにくいだろうということで、姿の似ている「赤ちゃん」と説明しました。小さなテーブル



折紙に挑戦中(低学年)



を 3 つ合せて、ぐるっとこの周りに子どもたちを集めて、一つひとつ折りながら、付いてきてもらいました。やはり付いてこられない子もあったので、手分けして折り方を教えました。何とか出来上がり、赤ちゃんの顔の部分に目鼻を描き入れる子もありました。次はカブト。これも手伝いしながらも何とか完成。ここで思いがけないことが起こります。出来上がった赤ちゃんにカブトを帽子のように被せる子が出てきたのです。みんなが真似します。楽しいコラボレーションとなりました。

カブトをお姫さまの王冠のように被るサマーちゃん(9歳)

日本ニュージーランド協会 ニュージーランド便り

NZのカラंगाハケ小学校で折紙教室

低学年の子どもたちの折紙はこれでおしまい。次は先ほどの高学年の子どもたちの部屋に戻りましたが、テーブルが充分ありません。そこで机を寄せ合わせたところと、テーブルのところを3つに分け、「鶴」「風船」「カブト」のそれぞれの希望者に集まってもらって、折紙を作りました。鶴は難しくて投げ出した子もいましたし、モンスターのような鶴もありました。鶴と風船に人気が集まり、カブトには女の子たちだけで、たった3人でした。それでもお姫さまの王冠のように頭に乘せてはしゃぐ女の子たち。最後に高学年の男の子がお礼の言葉を述べて、折紙教室は無事にお開きとなりました。

子どもたちの中にはマンガやポケモンに興味のある子もいましたし、インターネットで日本語を学び始めた子もいました。日本には子どもを引き付けるマンガ、ポケモン、折紙、コスプレ、絵文字などソフトパワーがいっぱいあります。何とか今後も、折紙のみならず、より幅広く教室は続けて行きたいと思っています。協会の皆さまが、たくさんこちらに来られるようお待ちしております。

もう一つ。開店休業状態となっているわが家に開いている日本図書館を、このカラंगाハケ小学校の日本に関心のある子どもたちに開放して、折紙、童話の読み聞かせなどを始めてみたいと思いはじめました。



折紙教室が終って、校門前

今回の折紙教室の詳細については、田中昭子さんにお尋ねいただけると幸いです。より生き生きとした状況が、手に取るようにお分かりいただけるものと思います。

理事 ジリアン・ヨーク